

日中活動部会 報告

1 目 的 市内における通所施設の資源不足が見られる。養護学校等から卒業する者が利用できる施設が少ない、離職された方が通う場が少ない。これらの地域課題に対し、部会を設置し解決に向けて検討、検証を行なう。

2 部会委員 12名・事務局

春日井公共職業安定所、尾張北部障害者就業・生活支援センターようわ
 肢体不自由児・者父母の会、手をつなぐ育成会、身体障害者福祉協会
 夢の家、第二希望の家、ワーカー鷹来、なかぎりワークス
 春日台養護学校、障がい者生活支援センターかすがい、圏域アドバイザー

3 開催日・内容

第1回	平成22年10月12日(火)	初回意見交換
第2回	平成22年11月9日(火)	意見交換から見えたものを検討
第3回	平成22年12月14日(火)	アンケート集計からの協議
第4回	平成23年1月11日(火)	アンケート集計・養護学校推計再 検証
第5回	平成23年2月8日(火)	千葉県庁チャレンジ雇用の紹介
第6回	平成23年3月8日(火)	個別サービス調整会議について

4 実施内容

(1) 現状把握・情報共有

ア 日中活動系サービス事業所へのアンケート依頼、協力を仰ぐ
 (内容) 定員・利用者数・利用年齢層・サービス内容・送迎の有無・
 将来の増員等

イ 養護学校卒業生の推計(春日台養護学校・小牧養護学校)
 (内容) 10年後までの卒業生数・事業所利用予測数

ウ 障害者就業・生活支援センターへの登録数から、離職者・
 在職者数の把握

エ ハローワークからの現況報告、地域企業の実態

(2) 資源不足の検証

アンケート集計、養護学校卒業生推計を照らし合わせた検証

(3) 部会から提案できること、個別サービス調整会議(就労・支援連絡会)
 とは

5 まとめ

- (1) 日中活動系サービス事業所からのアンケート集計、養護学校卒業生の推計からの検証結果から、特に障がいの重い方が通う場が、来年度から徐々に不足し行き場がなくなる。→部会から施策へ提言できる数字・根拠を用意する。
- (2) 資源不足により、施策を待っているだけでなく、みんなで何か協働してできないのか。→今後も協議し、画期的な方法を探る。
- (3) 相談支援事業所、福祉サービス事業所等が集まり、就労、日中活動、生活の場について効果的な会議を持つことが可能か否か。